

軌道利用のルール作りに関する中長期的な取組方針 改訂の概要

- 前回の改訂（2024年3月）以降の国際的な議論の進展や技術開発等を踏まえ、以下の方向性で「軌道利用のルール作りに関する中長期的な取組方針」を改訂。

項目	改訂の方向性
航行時の衝突防止	<ul style="list-style-type: none"> ● 「<u>人工衛星等との衝突防止に係るガイドライン</u>」に基づく運用を進めるとともに、国際的にも進んだ取組とされる同ガイドラインの国際的な普及・発信を進める。 ● 世界の有志事業者・団体等により構成される「<u>Space Safety Coalition</u>」が衝突防止・回避に関するベストプラクティスの策定などを行っているところ、<u>国内の衛星運用事業者にもこのような活動への参加を促す</u>。
SSAの構築・活用	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>防衛省・自衛隊におけるSSA体制の劇的な拡大</u>（7年度末に宇宙作戦団、8年度末に宇宙作戦集団（仮称）を新編）に焦点を当てる。 ● SSAに関する我が国の自律性を確保するため、経産省が宇宙戦略基金第3期に計上している「<u>宇宙交通管理を見据えた自律性確保に資する事業化加速</u>」における商用SSAに関する取組等を反映する。
デブリ抑制・低減の推進	<ul style="list-style-type: none"> ● デブリ抑制・低減に係る技術開発及び「<u>人工衛星の管理に係る許可に関するガイドライン</u>」に基づく運用を進めるとともに、同ガイドラインの国際的な普及・発信に努める。 ● <u>宇宙活動法の改正案</u>により、デブリ抑制等の観点から、モニュメント等の制御されない人工の物体について、その構造を打上げ前に確認する制度の創設を図る。
ラージコンステレーション	<ul style="list-style-type: none"> ● IADC（Inter-Agency Space Debris Coordination Committee）における議論の進展を踏まえつつ、国際的なルール形成に関与していくため、<u>ラージコンステに関する我が国の方針を明確化すべく検討</u>を進める。 ● SpaceXなどのラージコンステによる影響等が顕在化している中、<u>影響を受けている側が連携し、必要な対策や意見提出等</u>を行っていく。
軌道上サービス	<ul style="list-style-type: none"> ● 軌道上サービスは、これまで「その他」の項目に分類されていたところ、<u>本分野は我が国が技術開発・ルール形成の両面で世界をリード</u>しているとともに、国際的にも多くの議論や研究開発が行われていることから、<u>新規に項目を設定</u>。 ● <u>国際的な軌道上サービスの調整事項に関する検討</u>等を進めるとともに、検討した内容を国際社会へ積極的に発信する。